

# 鹿嶋市農業集落排水事業経営戦略 概要版

## 第1章 経営戦略の概要

### 1.1 はじめに

本市の農業集落排水事業は、中村地区・大船津地区・爪木地区の3地区に整備してきましたが、人口減少や節水機器の普及などによる使用料収入の減少、今後は老朽化した施設の更新費用の増額が懸念されるなど、厳しい経営状況を迎えています。

この経営戦略では、経営の効率化と合理化を図り、事業を安定的かつ持続的に進めるため、客観的な視点から、事業の現状及び長期的な将来を見据えた財務分析を実施し、最適な投資規模や資金計画等各種の経営課題を抽出するとともに、その改善方策について検討し、今後の経営方針を示すものです。

### 1.2 経営戦略の位置付け

この経営戦略は、地方公営企業の経営基盤強化と財政マネジメントの向上に取り組むために、総務省から「公営企業の経営に当たっての留意事項について」（平成26年8月29日付通知）や「経営戦略」の策定推進について」（平成28年1月26日付通知）が発出されたことを受けて、現状と将来の見通しを踏まえ、今後10年間の中長期的な経営の基本計画として策定するものです。

### 1.3 計画期間

経営戦略の計画期間は、令和3年度から令和12年度までの10年間とします。

## 第2章 事業の現状と課題

### 2.1 事業概要

本市の農業集落排水事業は、3地区で整備が完了しており、水洗化率<sup>\*1</sup>は全体で85%になっています。中村地区は供用開始から30年以上を経過しているため、施設の更新が必要になっています。

### 2.2 組織

農業集落排水事業の運営は、鹿嶋市（経済振興部農林水産課）が直営で行っています。

今後は、下水道事業（公共下水道事業と農業集落排水事業）の効率的な事業運営と市民サービスの向上を図るため、一体的な管理体制を検討しているところです。

### 2.3 課題

#### (1) 人口減少

鹿嶋市人口ビジョン（2020年改訂版）における2015人口ビジョンでは、2020年から2060年までの40年間（中位予測）で、約24%の人口減少が試算されています。

#### (2) 農業集落排水施設の更新費用 (千円)

地区名	更新費用（概算）	合計
中村地区	614,256	2,915,177
大船津地区	1,741,551	
爪木地区	559,370	

※鹿嶋市農業集落排水施設最適整備構想（令和2年度）で、2060年までの更新費用を示しています。

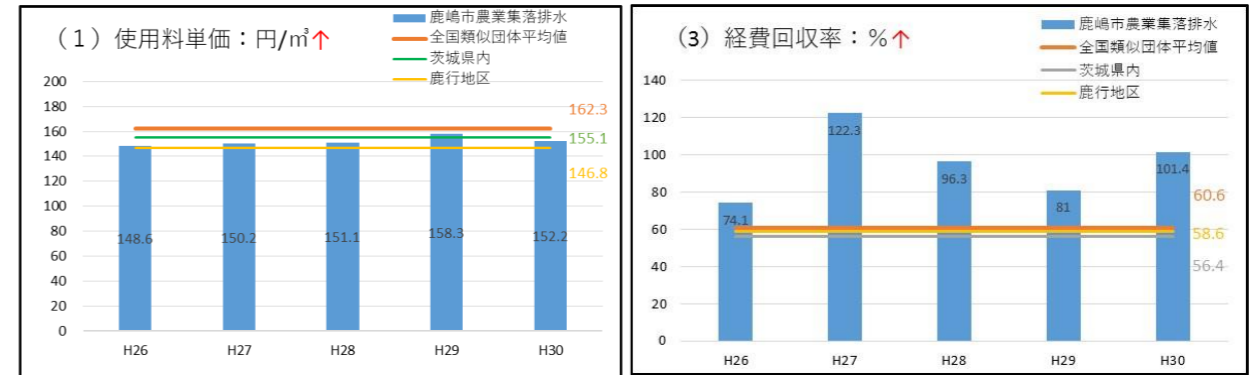
<sup>\*1</sup> 農業集落排水の使用が可能な人口のうち、実際に水洗便所を設置し、農業集落排水処理施設に接続して汚水処理している人口の割合

## 第3章 経営の現状分析

本市の農業集落排水事業における各種の経営指標等を活用して、事業規模の類似する団体（以下、類似団体）、県内及び近隣市との比較分析<sup>\*2</sup>を行い、課題を的確に把握するために、以下の3つの視点で経営の現状分析を行いました。

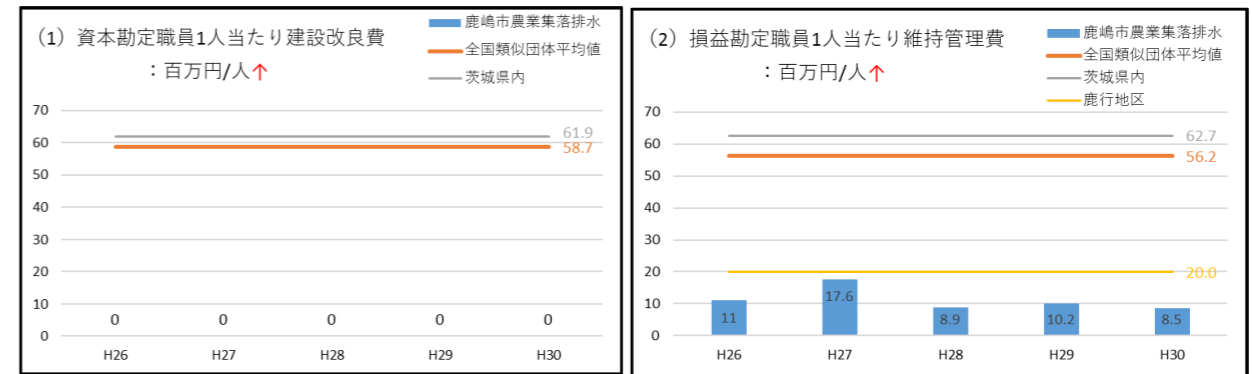
### (1) 財務（収益性・健全性）の視点

使用料単価が全国類似団体よりも低単価になっていることに加え、経費回収率が100%に達していない年度もある状況です。



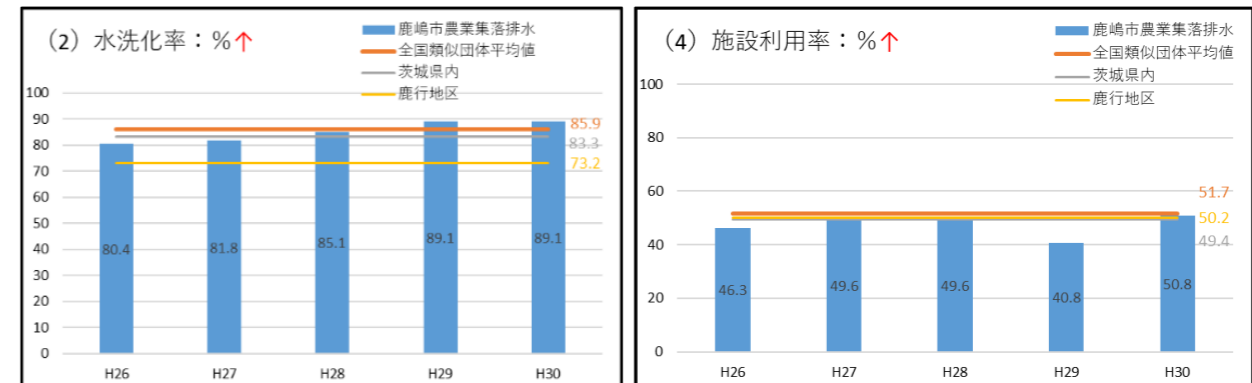
### (2) 組織の効率性の視点

建設改良費は、建設改良事業を行っていないため算出していません。維持管理費は、類似団体よりやや低くなっています。今後は管理運営（改築更新）の必要があることから、効率的な業務執行体制を確保することが求められます。



### (3) 事業・施設の効率性の視点

水洗化率は類似団体の中位にあります。農業集落排水施設使用料収入の増収や施設利用率の向上の観点からも、水洗化率向上に向けた農業集落排水への接続を推進していくことが求められます。



<sup>\*2</sup> 類似団体との比較では、現時点で入手可能な最新（平成30年度）の実績値と比較しました。

## 第4章 経営の基本方針と実施方針

### 4.1 基本方針

今後も市民サービスを継続して提供するために、経営の効率化と健全化に取り組み、企業性と広域性を両立した持続的・安定的な経営を目指すことを経営の基本方針とします。

### 4.2 実施方針

経営の基本方針を踏まえ、以下の4つの取組を経営の実施方針として、事業を運営していくものとします。

- (1) 水洗化率の向上 …… 水洗化率の向上に努め、使用料の増収を図ります。
- (2) 経営の効率化 …… コスト削減に向けて、経営（ひと・もの・お金）の効率化を図ります。
- (3) 財務の健全化 …… 持続的・安定的に事業を運営するため、財務の健全化を図ります。
- (4) 適正な事業運営 …… 投資効果を考慮した、施設整備（更新）を図ります。

## 第5章 経営の効率化・健全化に向けた具体的な取組

今後の経営の効率化・健全化に向けた具体的な主な取組は、下記のとおりです。

### 5.1 効率化・健全化に関する事項

#### (1) 収益性・健全性

- 接続推進（広報活動の充実、戸別訪問の推進）を実施します。また、処理水量が減少している中村地区の新規接続を検討します。
- 更なる経営基盤の強化を図るため、公営企業会計を導入します。

#### (2) 組織の効率性

- 事務の効率化と市民サービスの向上を図るため、公共下水道事業と農業集落排水事業の事務統合を検討します。

### 5.2 広域化に関する事項

鹿嶋市広域化・共同化計画<sup>※3</sup>による公共下水道事業と農業集落排水事業（大船津・爪木地区）の統合を検討し、事業の効率化を図ります。

### 5.3 民間活力の活用に関する事項

3地区共通の維持管理業務を一括発注することで、事務負担の軽減やスケールメリットによる管理経費縮小の検討を図ります。

## 第6章 投資・財政計画の策定

本経営戦略の計画期間である令和3年度～令和12年度の10年間における投資試算とその財源試算を行い、収支均衡に注視し、投資・財政計画を次のとおり策定します。

### 6.1 投資試算

投資試算では、以下の考えに基づき、収益的支出（維持管理費、支払利息）及び資本的支出（地方債償還金）を試算しました。

#### 【投資試算の考え方】

- 大船津地区及び爪木地区は、鹿嶋市広域化・共同化計画の具体的な効果を分析した上で、公共下水道事業との統合を検討します。また、中村地区は人口減少等による処理水量の減少を踏まえて、事業の見直しを含めた検討を行います。

### 6.2 財源試算

財源試算では、以下の考えに基づき、収益的収入（営業収益：料金収入、営業外収益：一般会計繰入金）及び資本的収入（地方債、国庫補助）を試算しました。

#### 【財源試算の考え方】

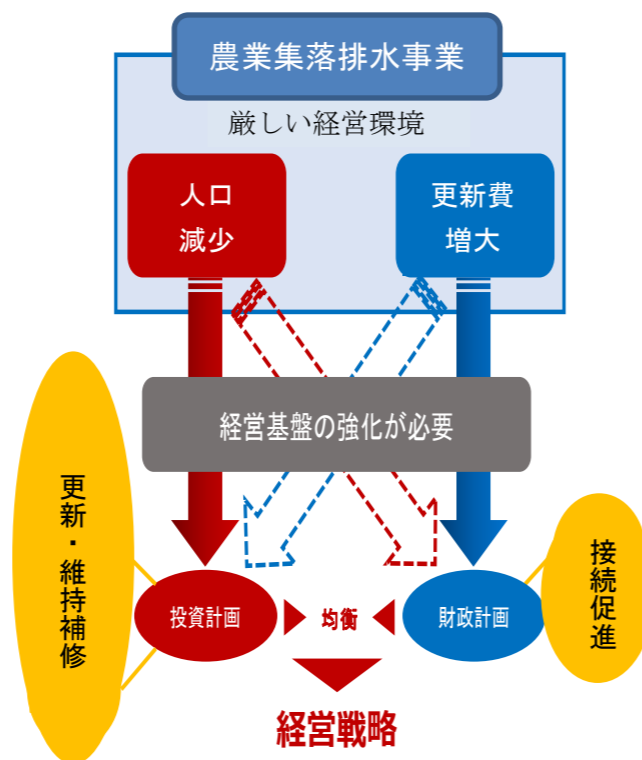
- 安定的な経営を図るため、水洗化率の向上（中村地区の新規接続の検討を含む）を推進し、使用料収入の確保に努めます。また、自主財源確保のため、使用料の見直しについて検討します。
- 経営の効率化を推進し、健全な農業集落排水事業経営を目指します。
- 自主財源（使用料等）及び基準内繰入金で汚水処理費が賄えるよう努めます。

### 6.3 投資・財政計画

以上の考え方を踏まえ、「投資・財政計画」を策定した結果、本市の農業集落排水事業は「農業集落排水使用料等の自主財源」と基準外を含めた「他会計繰入金」で汚水処理費が賄える投資・財政計画となっています。

今回の経営戦略における「投資・財政計画」は、過去5か年間（平成28年度から令和2年度まで）の事業量や近年の償還状況など、これまでの実績値をもとに試算しています。この結果、今後の事業経営においては既存設備の財源確保に要した地方債償還金及び利息払いが令和5年度にピークを迎えることで、他会計繰入金（一般会計繰入金）の負担率が増加しています。その後、他会計繰入金は減少するものの、持続的・安定的な経営を図るため、更なる事業の効率化と健全化を推進します。

また、今後は処理施設の更新を控えており、老朽化した管渠の改修にも多額の費用を要することが見込まれています。このため、建設改良費に要する財源については、国庫補助金・地方債・一般会計からの繰入金等の資金を確実に調達し、資金不足が発生することのないよう、事業の効率化と計画的な資金管理が必要となります。



※3 汚水事業の上位計画である生活排水ベストプランを構成する「整備・運営管理手法を定めた整備計画」の一部に位置付けられた計画